

農用トラクタは
間伐木の集材に
活用できます。



A

農用トラクタは、農家にとって最も身近で扱い慣れた機械です。これを上手に利用すれば、間伐木の集材が容易におこなえ、しかも功程が相当上がることがわかりました。どのような林で、どのような方法で農用トラクタを活用するかを紹介します。



B

傾斜が急な林では、農用トラクタは走行できません。傾斜15度までが安全走行のできる林です。木を切り倒し、枝を払った状態（全幹材）で集材する場合は簡易なウィンチを装着します(A)。森林作業に不慣れな方には、材を一定の長さの丸太にした状態（短幹材）でフロントローダを利用して集材する方法を勧めます(B)。材の取扱いが容易なのと、残った立木に傷を付けることが少ないからです。胸高直径17~18cm

の林で間伐をおこない、400mの距離を集材する場合には、どちらの方法でも1日当たり15~20m³(100~133本)の材を集材することができます。実際に集材を試みられたい方は、お近くの林業指導事務所、支庁林務課または林業試験場へお問い合わせください。